

## 第57期(2025年度)事業報告

本会が第57期(2025年 3月 1日~2026年 2月28日)に行った事業は次のとおりである。

## I. 事業状況

- ① 研究発表および学術講演会の開催(定款第4条1号)
- ・AJCPP&第64回航空原動機・宇宙推進講演会  
開催日 2025年3月19日~21日  
場 所 西安(中国)
  - ・第56期年会講演会  
開催日 2025年4月3日、4日  
場 所 東京大学 本郷キャンパス(東京)
  - ・第56期定時社員総会開催日  
開催日 2025年4月15日  
場 所 オンライン
  - ・第57回流体力学講演会/第43回航空宇宙数値シミュレーション技術シンポジウム  
開催日 2025年7月2日~4日  
場 所 タワーホール船堀(東京)
  - ・第35回宇宙技術および科学の国際シンポジウム(35<sup>th</sup> ISTS)  
開催日 2025年7月12日~18日  
場 所 アスティとくしま(徳島市)
  - ・第67回構造強度に関する講演会  
開催日 2025年8月6日~8日  
場 所 サンポート高松(香川県高松市)
  - ・2025年度「空の日・宇宙の日」記念特別講演会  
開催日 2025年9月2日  
場 所 航空会館(東京)
  - ・第20回全日本学生室内飛行ロボットコンテスト  
開催日 2025年9月26日~28日  
場 所 日本工学院アリーナ(東京)
  - ・第63回飛行機シンポジウム  
開催日 2025年10月15日~17日  
場 所 沖縄県市町村自治会館(沖縄県那覇市)
  - ・アジア太平洋航空宇宙技術国際シンポジウム2025(APISAT-2025)  
開催日 2025年10月27日~29日  
場 所 ソウル(韓国)
  - ・第69回宇宙科学技術連合講演会  
開催日 2025年11月25日~28日  
場 所 札幌コンベンションセンター(札幌市)
  - ・第29回スカイスポーツシンポジウム  
開催日 2025年12月6日  
場 所 東海大学品川キャンパス(東京)

さらに、日本航空宇宙学会主催の支部関連の行事を次のとおり行った。

- ・北部支部2025年講演会ならびに  
第6回再利用型宇宙輸送系シンポジウム 2025. 3.10~11 (北部支部主催)
- ・中部支部第68期支部大会及び特別講演会 2025. 3.13 (中部支部主催)
- ・西部支部第53期支部総会および特別講演会 2025. 3.17 (西部支部主催)
- ・関西支部第71期総会・特別講演会 2025. 4.11 (関西支部主催)

以上のほか、関連学術団体との共催講演会等を次のとおり行った。

- ・安全工学シンポジウム2025 2025. 6.25~27 (本会共催)
- ・第33回衛星設計コンテスト 2025. 11.22 (日本機械学会他との主催)
- ・第68回自動制御連合講演会 2025. 11.1、2 (計測自動制御学会他との主催)

## ② 会誌その他図書の刊行(定款第4条2号)

- ・学会誌「日本航空宇宙学会誌」を次のとおり発行した。

の	発行年月日	巻	号	発行部数	発行年月日	巻	号	発行部数
	2025年3月5日	73	3	3,400部	2025年9月5日	73	9	3,400部
	2025年4月5日	73	4	3,400部	2025年10月5日	73	10	3,400部
	2025年5月5日	73	5	3,400部	2025年11月5日	73	11	3,400部
	2025年6月5日	73	6	3,400部	2025年12月5日	73	12	3,400部
	2025年7月5日	73	7	3,400部	2026年1月5日	74	1	3,400部
	2025年8月5日	73	8	3,400部	2026年2月5日	74	2	3,400部

- 和文論文集「日本航空宇宙学会論文集」をJ-STAGE（科学技術情報発信・流通総合システム）によるオンラインジャーナルとして、次のとおり発行した。

発行年月日	巻	号	発行年月日	巻	号
2025年4月5日	73	2	2025年10月5日	73	5
2025年6月5日	73	3	2025年12月5日	73	6
2025年8月5日	73	4	2026年2月5日	74	1

- 国際論文集“Transactions of the Japan Society for Aeronautical and Space Sciences”をJ-STAGE（科学技術情報発信・流通総合システム）によるオンラインジャーナルとして、次のとおり発行した。

発行年月日	巻	号	発行年月日	巻	号
2025年3月4日	68	2	2025年9月4日	68	5
2025年5月4日	68	3	2025年11月4日	68	6
2025年7月4日	68	4	2026年1月4日	69	1

- 和文オンラインジャーナル誌「航空宇宙技術」をJ-STAGE（科学技術情報発信・流通総合システム）に随時発行した。
- 英文オンラインジャーナル誌“Transactions of the Japan Society for Aeronautical and Space Sciences, Aerospace Technology Japan”をJ-STAGE（科学技術情報発信・流通総合システム）に随時発行した。

③ 研究および調査（定款第4条3号）

- 航空宇宙ビジョンの維持改定および広報活動を行った。
- 航空宇宙の新分野の研究を行った。

④ 関連学会等との連絡および協力（定款第4条4号）

- 関連学術研究団体の行事に協力し、講演会等の事業を協賛・後援し、連携強化に努めた。

⑤ その他目的を達成するために必要な事業（定款第4条5号）

- 第34回（2024年度）日本航空宇宙学会賞を次のとおり表彰した。

論文賞（2件）：「Performance Analysis of Runway Allocation for Arrival Flow Using a Queuing Model」

宮沢与和, 虎谷大地, 中村 陽一, 森 亮太（電子航法研究所）

「CFD Study on Penetration of Sonic Boom Applying a Wavy-Water Model」

陳 柏勲, 鈴木宏二郎（東京大学）

技術賞〔基礎技術部門〕（1件）

「航空機塗料を用いたリプレット技術の開発及び飛行実証」

栗田 充, 笹森萌奈美, 古賀星吾, 飯島由美, 郭 東潤(JAXA), 鳥越大志郎, 緒方隆裕,

近藤 真 (JAL エンジニアリング), オーウェル(株)Jプロジェクトチーム

技術賞「プロジェクト部門」(1件)

「日本で初めて月面を探査したロボットLEV」

吉光徹雄, 大槻真嗣, 吉川健人(JAXA), 前田孝雄(東京農工大), 國井康晴(中央大), 富木淳史,

鳥居 航, 宇佐美尚人, 廣瀬智之(JAXA), 長谷川昭彦, 室井秀作(昭特製作所),

SLIMプロジェクトチーム

奨励賞（3件）：松田治樹（JAXA）「乱気流指数の精度評価と高度差・季節差による補正」

石田貴行（JAXA）「Crater Detection Robust to Illumination and Shape Changes using Convolutional Neural Network」

山田健翔（JAXA）「Capture Area Ratio and Drag Difference between Wind Tunnel and Flight Tests Flight-to-Wind-Tunnel Correlation Study using JAXA's Flying Test Bed “Hisho”」

「Numerical Study on Variation in Drag Difference by Adding Annular Plug into Flow-Through Nacelle with Integrated Configuration」

宇宙ビジネス共創アワード（1件）：

「宇宙環境の改善に資する、スペースデブリ除去サービス」

株式会社アストロスケール

- 第3号航空宇宙技術遺産を次のとおり表彰した。

日本独自の地球観測システムを切り拓いた海洋観測衛星「もも 1 号(MOS-1)」  
 日本初の軌道上有人実験施設「きぼう」日本実験棟  
 周回航続距離世界記録を樹立した航空研究所試作長距離機（航研機）  
 FJR710 による高バイパス比ターボファンエンジン技術  
 民間超音速機実現のための低ソニックブーム設計技術実証（D-SEND）  
 スポイラ横操縦技術等により型式証明を取得した高速ターボプロップ機 MU-2A

- ・2012 年より続いていた公益目的支出計画の実施が 2025 年 2 月 28 日で完了し、10 月 20 日付で内閣総理大臣より「公益目的支出計画の実施完了の確認書」を受領した。
- ・第 4 号航空宇宙技術遺産の認定を行った。
- ・2025 度日本航空宇宙学会賞の選考を行った。
- ・第 25 回（2025 度）日本航空宇宙学会学生賞の受賞者を決定し、受賞者表彰を行った。
- ・月刊メールマガジンの会員向け刊行や X（旧 Twitter）での情報提供など、会員サービスの向上に努めた。
- ・ジュニア会員の研究活動の活性化および発表機会の拡充を目的として、飛行機シンポジウムおよび宇宙科学技術連合講演会においてジュニアセッションを設置した。これにより、ジュニア会員にも研究成果を発表する機会を提供した。
- ・理事会と各支部との交流促進を目的として、今年度の年会講演会は関西支部の協力のもと、大阪大学において開催することとなった。
- ・政府と学会の関係強化を目的として、意見交換の場を積極的に設け、双方が必要としている事項や連携の在り方について協議が行われた。
- ・第 56 期より進めている部門活動の活性化に向けて、各部門に対してアンケートを実施した。その結果を踏まえ、理事会において、部門の関連領域明確化のために「学術分野/工学機器と部門の対応表（マトリックス）」を作成すると共に、部門の在り方検討および更なる活性化推進を行っている。

## II. 会議等に関する事項

### (1) 理事会

第 57 期(2025 年度)の理事会は、2025 年 4 月 15 日(火)に開催された第 641 回理事会から、2026 年 3 月 25 日(水)に開催された第 653 回理事会まで、計 13 回開催した。

### (2) 代議員

第 58 期代議員は、正会員による選挙を行った。

### (3) 社員総会

第 57 期(2025 年度)定時社員総会を 2026 年 4 月にハイブリットで開催することを決定した。

## III. 会員の異動状況

資格 摘要	正会員		学生会員	名誉会員	賛助会員 (個人・団体)	支部賛助会員 (個人・団体)	個人会員計 (除賛助会員)
		内・永年会員 フェロー会員					
今期末 2026 年 2 月 28 日現在	3,475 名	( 300 名) ( 175 名)	1,561 名	50 名	1 名、 70 団体	0 名 65 団体	5,415 名 (ジュニア 379 名含む)
前期末 2025 年 2 月 28 日現在	3,398 名	( 284 名) ( 172 名)	1,287 名	53 名	0 名 73 団体	0 名 64 団体	4,958 名 (ジュニア 220 名含む)
(増減)	77 名	(6 名) (3 名)	274 名	△3 名	1 名 △3 団体	0 名 1 団体	457 名 (ジュニア 159 名含む)

## IV. 役員等に関する事項

職名	氏名	担当職務	現職
会長	澤井 秀次郎	代表理事 (法人統括)	宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究所 副所長
筆頭副会長	小紫 公也	代表理事 (会長補佐)	東京大学大学院 工学系研究科 航空宇宙工学専攻 教授
副会長	山浦 由起子	業務執行理事 (会長補佐)	株式会社 IHI エアロスペース 宇宙開発利用技術部 主幹
庶務理事	保江 かな子	業務執行理事 庶務(筆頭)	宇宙航空研究開発機構 航空技術部門 航空利用拡大イノベーションハブ 研究開発マネージャ
同	内海 政春	庶務(北部)	室蘭工業大学 航空宇宙機システム研究センター 教授
同	杵淵 紀世志	庶務(中部)	名古屋大学 大学院工学研究科 航空宇宙工学専攻 准教授
同	岸本 直子	庶務(関西)	関西学院大学 工学部 教授
同	花田 俊也	庶務(西部)	九州大学大学院 工学研究院 航空宇宙工学部門 教授
同	金崎 雅博	庶務	東京都立大学 システムデザイン学部 航空宇宙システム工学科 教授
同	上野 陽亮	庶務	川崎重工株式会社 航空宇宙システムカンパニー 航空宇宙技術本部 基幹職
同	徳川 直子	庶務	宇宙航空研究開発機構 航空技術部門 事業推進部
同	中北 和之	庶務	宇宙航空研究開発機構 航空技術部門 基盤技術研究ユニット ユニット長
同	小泉 宏之	庶務	東京大学大学院 新領域創成科学研究科 准教授
会計理事	船瀬 龍	会計	宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究所 教授
同	小田切公秀	会計	宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究所
広報理事	和田 豊	広報	千葉工業大学 工学部 機械電子創成工学科 教授
編集理事	坪井 伸幸	編集(会誌)	九州工業大学 工学部 機械知能工学研究系 教授
同	小木曾 望	編集(論文集)	大阪府立大学 工学研究科 航空宇宙海洋系 教授
監事	佐宗 章弘	監査	名古屋大学 副総長
同	石井 達哉	監査	宇宙航空研究開発機構 航空技術部門 航空環境適合イノベーションハブ シニアアドバイザー

以上